

校長のひとりごと8

「心に移りゆくよしなし事をそこはかとなく書き作れば…」

校長の内田です。九州地方では記録的な豪雨となっています。7月1ヶ月間に降る量が2日間で降ったとか…。被害も相当出ているようです。心配です。関東地方も梅雨真ただ中です。とは言ってもあまり梅雨らしさを感じません。例年に比べて雨の降る量が少ないような気がします。夏になって水不足にならないといいのですが。

四日間の期末テストが終了しました。毎日、1時間ごとに教室を回ってます。一所懸命に問題を解いている生徒がほとんどですが、中にはすでに終わってしまって寝ているのか、または、あきらめて寝てしまっているのか…ごくわずかですがそんな生徒も見受けられます。テストだけで成績が付くわけではありませんが、この1学期間にどれくらい知識が身についたのか、理解できたかのかを確認できるいい機会にはなっただけです。その結果が良くも悪くも自分がやってきたことです。結果をちゃんと受け止めましょう。

## さくひん 作品

タイトル短っ！（笑）

学校にいるときは、1日1回は各教室を回るようにしています。授業や生徒の様子を見たり、校内に危険個所がないか等の確認をするためです。書道の授業を覗いた時のこと、生徒が一所懸命書いてました。「書いた作品はどうするんですか？」と担当の須之内先生に訪ねると「書道室の前の廊下に展示します。」とのこと。書道室は北棟1階であり日当たらず、人通りも少ない場所。せっかく生徒が頑張って書いているのだから見えるところに飾りたいと思い、「校長室の前の廊下が空いているのでそこに展示しましょう。」と提案したところ、快く引き受けて、持ってきていただけました。早速、展示させてもらいました。



読めますか？いろんな書体で書いてあるので、正直、私には読めない字もありました。

(<sup>なまえ</sup>名前の部分<sup>ぶぶん</sup>は<sup>こじんじょうほう</sup>個人情報<sup>かんてん</sup>の観点からモザイクがかけてあります。)

<sup>こうちょうしつ</sup>校長室にも<sup>いってん</sup>一点<sup>ひが</sup>。日替わりか<sup>しゅうが</sup>週替わり<sup>さくひん</sup>で作品<sup>ろうか</sup>を廊下<sup>か</sup>のものと<sup>おも</sup>換えようと思<sup>わたし</sup>っています。校長室<sup>こうちょうしつ</sup>に生徒<sup>せいと</sup>の作品<sup>さくひん</sup>があることは私<sup>わたし</sup>にとってとても<sup>いや</sup>癒<sup>なご</sup>しになります。

また、<sup>あた</sup>新<sup>あたら</sup>しい<sup>さくひん</sup>作品<sup>ねが</sup>ができたなら<sup>ねが</sup>お願いするつもりです。<sup>びじゅつ</sup>美術<sup>さくひん</sup>の作品<sup>てんじ</sup>も展示<sup>てんじ</sup>したいです。

「<sup>こうちょうしつ</sup>ギャラリー校長室<sup>わらい</sup>」オープンです。<sup>らいこう</sup>(笑)来校<sup>さい</sup>された際<sup>み</sup>には、ぜひ<sup>うれ</sup>見ていただけると嬉しい<sup>うれ</sup>です。



<sup>つづ</sup>続いては、<sup>じむしつまえ</sup>事務室<sup>しよくいんげんかん</sup>前<sup>はい</sup>、職員<sup>はい</sup>玄関<sup>はい</sup>を入<sup>ひだりがわ</sup>った左側<sup>たなばた</sup>の七夕<sup>かざ</sup>の飾<sup>かざ</sup>りつけ。技能員<sup>ぎのういん</sup>の松永<sup>まつなが</sup>さんが飾<sup>かざ</sup>ってくれました。

<sup>たなばた</sup>七夕<sup>こせつく</sup>は五節句<sup>ひと</sup>のうち<sup>えと</sup>の一つ<sup>えと</sup>です。<sup>しだい</sup>江戸<sup>ばくふ</sup>時代<sup>こうてき</sup>に幕府<sup>ぎょうじ</sup>が公的<sup>しゅくじつ</sup>な行事<sup>さだ</sup>として定め<sup>わたし</sup>ていたらしいです。私<sup>わたし</sup>も初<sup>はじ</sup>めて知<sup>し</sup>りました。

<sup>かんめい</sup>漢名<sup>が</sup>で人日<sup>じんじつ</sup> (1月7日)・上巳<sup>が</sup> (3月3日)・端午<sup>たんご</sup> (5月5日)・七夕<sup>しちせき</sup> (7月7日)・重陽<sup>ちやうよう</sup> (9月9日)、<sup>ちも</sup>和名<sup>しちくさ</sup>で七草<sup>せつく</sup>の節句<sup>せつく</sup>、<sup>もも</sup>桃<sup>しやうぶ</sup>の節句<sup>せつく</sup>、<sup>たなばた</sup>菖蒲<sup>きく</sup>の節句<sup>せつく</sup>、<sup>べんきやう</sup>七夕<sup>べんきやう</sup>、<sup>べんきやう</sup>菊<sup>べんきやう</sup>の節句<sup>べんきやう</sup>だそうです。勉強<sup>べんきやう</sup>になりました。



とっても<sup>おりひめ</sup>かわいい「織姫<sup>ひこぼし</sup>」<sup>ことし</sup>「彦星<sup>あ</sup>」です。今年<sup>あ</sup>は会<sup>あ</sup>うことができるのでしょうか。<sup>てんきよほう</sup>天気予報<sup>てんきよほう</sup>では<sup>むすか</sup>難<sup>むすか</sup>しそうかな。

その他<sup>ほか</sup>、<sup>げんかんまわ</sup>玄関<sup>げんかんまわ</sup>周り<sup>げんかんまわ</sup>には<sup>げんかんまわ</sup>こんな<sup>げんかんまわ</sup>のも<sup>げんかんまわ</sup>あります。



「はしもん堂」<sup>どう</sup> いったい誰<sup>だれ</sup>が作った<sup>つく</sup>んでしょう？細かいところまで実によくできてます。

右<sup>みぎ</sup>の2枚の絵も玄関周<sup>まい え げんかんしゅうへん</sup>辺にあ  
ります。左側<sup>ひだりがわ</sup>は平成16年<sup>へいせい ねん</sup>～17  
年<sup>ねん</sup>にいたエクアドルからの  
留<sup>りゅうがくせい</sup>学生<sup>きせう</sup>から寄贈<sup>きそウ</sup>されたもので  
す。画像<sup>がぞウ</sup>ではわかりませんが、細  
かい糸<sup>いと</sup>系<sup>けいと</sup>（毛系<sup>あ</sup>？）で編<sup>あ</sup>みこまれて  
作<sup>さくせい</sup>成<sup>せい</sup>されています。

右側<sup>みぎがわ</sup>は校長室<sup>こうちょうしつ</sup>前の廊下<sup>ろうか</sup>にあ  
ります。絵<sup>え</sup>の左下<sup>ひだりした</sup>に「'75  
H.WADA」と書<sup>か</sup>かれています。  
本<sup>ほん</sup>校<sup>こう</sup>の創<sup>そう</sup>立<sup>りつ</sup>より少<sup>すこ</sup>し前<sup>まえ</sup>に書<sup>か</sup>かれ  
たもの<sup>もの</sup>のよう<sup>よう</sup>です。作<sup>さく</sup>者<sup>しゃ</sup>をネッ  
ト<sup>しら</sup>で調<sup>しら</sup>べてみましたが、よくわ  
かりません<sup>で</sup>した。



今日<sup>きょう</sup>はこのくらいにしておきます。少<sup>すこ</sup>しづつ学校<sup>がっこう</sup>の様子<sup>ようす</sup>を紹<sup>しょう</sup>介<sup>かい</sup>していきます。

これから<sup>む</sup>も蒸<sup>あつ</sup>し暑い<sup>ひ</sup>日<sup>つ</sup>が続<sup>つ</sup>きそうです。みなさま。ご自<sup>じ</sup>愛<sup>あい</sup>ください。

